allcinema

淪落の女の日記（1929）

DAS TAGEBUCH EINER VERLORENEN

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 ドイツ
色彩 B&W
時間 110分
初公開日 1930/04
公開情報 劇場公開

【解説】

高級娼婦ティミアンには人知れぬ過去があった。彼女は裕福な薬剤師の家に生まれたが母を早くに亡くし、乳母に育てられた。ある日、彼らの身の回りの世話を焼くメイドが泣きはらした目で館を後にした。彼女は父のお手つきで、別れを切り出され、すごすご去っていったのだ。事情を知る使用人は一人ほくそ笑む。その笑みの意味を知りたいティミアンは、夜、彼の部屋を訪ねて身をもって知らされる……。新しく来たメイドは前任者のように従順でなく、主人を焦らせた挙げ句、結婚を承諾させ後妻の座に着いた。やがて身籠もったティミアンは継母とうまくいかず、こっそり産んだ子を養子に出され、自分は感化院に送られた。そこの鬼の指導員は既に純潔を失った彼女を目の敵にし苛め抜く。耐えきれず逃げ出したティミアンは、養子に出した娘の死を知らされ、人生を流れるに任せ、今の職にあったのだが、その姿を発見した父は絶望して自殺。彼女は店で行なった富くじに当たり大枚を得ていたが、使用人の背任で商売も傾き窮状を訴える継母に、初めて会う弟妹たちのためにやるのだーーと言って、それをくれてしまう。しかし、彼女の過去を一切承知で妻にしたいという男が現れる。彼は伯爵で、夫人のティミアンも様々な公益事業に駆り出されるが、その一つが例の感化院の相談役で、内実を知る彼女は、自分の秘密をさらしても少女たちの人権を擁護したいと主張し、その事業の後継者となる。ルルことＬ・ブルックスを未だに光り輝かせる、パプストの粘っこいリアリズム演出も見応え充分の、コンビ二作目。流転の女、運命の女を演じて、毅然と美しいルルが素敵だ。

【クレジット】

監督	Ｇ・Ｗ・パブスト	G.W. Pabst
出演	ルイーズ・ブルックス	Louise Brooks
	フリッツ・ラスプ	Fritz Rasp
	ヨゼフ・ロヴェンスキー	Josef Rovensky
	エディット・マインハルト	
	シビル・シュミッツ	Sybille Schmitz

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.